

# 暗唱のすすめ 百人一首編⑳

九十六

はな ウ あらし にわ ゆき  
花さそふ 嵐の庭の 雪ならで  
み  
ふりゆくものは わが身なりけり



入道前 太政大臣  
にゆうどうさきのだいじょうだいじん

九十七

こ ひと うら ゆう  
来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに  
や もしお み  
焼くや藻塩の 身もこがれつつ



権中納言 定家  
ごんちゆうなごんさだいえ

九十八

かぜ おがわ ゆうぐ  
風そよぐ ならの小川の 夕暮れは  
なつ  
みそぎぞ夏の しるしなりける



従二位家隆  
じゆにいいたか

九十九

ひと お ひと うら ジ  
人も惜し 人も恨めし あぢきなく  
よ おも エ ものおもウみ  
世を思ふゆゑに 物思ふ身は



後鳥羽院  
ごとばいん

百

ふる のきは  
ももしきや 古き軒端の しのぶにも  
オ  
なほあまりある 昔なりけり  
むかし



順徳院  
じゆんとくいん